

## 「SEND プログラム ベトナム国家大学ハノイ校サマープログラム 参加報告書」

京都大学農学部3年 押村亜沙美

今回のプログラムでは、9月12日—9月16日をベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学で過ごし、9月19日—9月23日をベトナム国家大学ハノイ校外国語大学で過ごした。人文社会科学大学ではベトナム語講座、ベトナムに関する文化講座を受講し、現地学生の日本語授業に参加した他、校外学習としてドウオンラム村に行った。また、外国語大学ではベトナム語講座の受講、現地学生の日本語授業への参加、日越共同発表、校外学習として景勝地チャンアン観光を行った。

ベトナム語講座は、ベトナム語の発音練習から始まり、基本会話の習得までを行った。ベトナム語の発音は日本語の発音とは大きく異なるため、正しく発音することはとても難しい他、ベトナム語には声調が存在し、トーンを間違えただけで違う意味になってしまうので、1つの言葉を習得するだけでも多くの時間を要した。また、これらの難関により、ベトナム語講座を受講したものの、実社会でベトナム語を使うことはとても難しかった。しかし、自分のベトナム語が相手に通じたときはとても嬉しく感じた。

また、ベトナム語講座、ベトナムに関する文化講座を通じて、ベトナム人の考え方やその歴史的背景などが分かり、とても面白かった。特に、文化財や言語などは中国的な影響を受けているものが多いにも関わらず、現在のベトナムでは領土問題などもあり、中国に良い感情を持っていない人が多いということは印象的であった。また、ベトナム経済発展の方法も興味深かった。ベトナムの発展方法は、大都市に全てを集約する中国のような方法ではなく、農村地域も潤しながら全体的に発展させようとするため、GDPが上がりやすく、発展が反映されにくいということであった。このことから、現行のGDP換算では都市集約型の発展方法が優遇される形になっていることがわかり、ベトナムのような方法が評価される新しい尺度が必要であると感じた。

今回のプログラムで、人文社会科学大学と外国語大学の2大学にお世話になった。派遣前は、なぜ日本語学習者が2つの大学に分かれて在籍しているのだろうかと不思議に思っていたが、実際に大学に行くことにより、大学としての目的や学生の雰囲気が大きく異なることに気付いた。最初に訪問した人文社会科学大学は、日本について研究するために日本語を学習している様子であり、日本語学習の際にも日本に関する題材をよく用いている印象を受けた。また、日本学科は1クラスのみで少人数のため、先生が一人ひとりの学生をよく把握していると感じた。そして、一番驚いたことが、宿題を忘れた際の罰金制度である。これは、宿題を忘れた学生から一人5000ドンを徴収し、徴収したお金は学期末のパーティーで使うという制度である。日本の大学では、学期末のパーティーすらないので、考えられない制度であるが、アットホームな学風を生かした制度であり、とても面白い取り組みだと思った。そして、一方の外国語大学は日本語学習者を約600人要しており、日本語教育現場としてとても規模が大きいという印象を受けた。教育内容も日本語学習にとっても力を入れており、体系的に学習する制度ができていると感じた。しかし、学生数が多すぎるせいか、教室変更がとても多く、また、先生が学生を把握しきれていないため、学生が不便を被っていると思った。しかし、両大学ともに共通していたことが、学生の日本語習得への意欲の高さや日本への興味深さであり、拙い日本語で必死に私に話しかけてくれる姿には胸を打たれた。

また、現地で生活して印象に残ったことは、交通事情と家庭についてである。

まず、交通事情に関して、ベトナムのバイクの多さについては派遣前から聞いていたものの、実際に現地へ行くと予想以上の多さに驚かされた。ベトナムでは、ほとんど信号や車線がないため、車やバイクが非常に自由に走っている印象を受けた他、クラクションを鳴らす頻度が極端に高いと感じた。しかし、長距離列車以外には電車が存在しないハノイではバイクが市民の足となっており、多くの学生もバイクを使って登校している。人文社会科学大学でお世話になった先生曰く、10年あまりの間に複数人の学生をバイク事故で無くしているそうである。学生達は当たり前のように、バイクを乗りこなしているものの、朝と晩の交通渋滞はとてもひどく多少なりとも危険を伴う上に、空気も汚染されているため、とてもストレスが溜まり、事故の確率が上がりそうだと感じた。友人たちには安全運転に心がけてもらいたいと思った他、彼らが安全に登下校できるような便利な公共交通機関ができるといいと思った。

今回のプログラム参加期間中に、ベトナム人の友人の家にお邪魔させて頂く機会が3度あった。その中で驚いたこととしては、家の立地、もてなし方、家の開放性が挙げられる。まず、家の立地としては、今回お邪魔した3軒共、乗用車が入ることのできない程細い道に面しており、大通りからは、小さな路地をくねくねと何度も曲がらないといけない場所にあった。ハノイ市内の古くからの建物が立ち並ぶ地域では、間口の狭い建物